



スポーツ推進委員を紹介します

スポーツ推進委員の活動

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法により「スポーツ推進のための事業の実施に係る連絡調整並びに住民に対するスポーツの実技の指導その他スポーツに関する指導及び助言を行う」と定められています。市では30人のスポーツ推進委員が委嘱され、地域のレクリエーション・スポーツ活動を推進しています。また、市や教育委員会の主催する各種スポーツ大会の企画、運営を行っています。今後は市スポーツ推進委員主催の新規イベントの実施に向けて検討します。

旭市スポーツ推進委員

会長 知念清壽(干潟(旧旭)地区)

副会長 片桐文夫(飯岡地区)、菱木芳雄(豊畑地区)

宮内良子(琴田地区)

(中央地区)成毛勝雄、加藤典晃、小島美千代

(琴田地区)深井俊行

(矢指地区)飯笹勉、加瀬千歳

(富浦地区)大橋誠治、鶴澤葉子

(共和地区)向後信子、石毛仁

(豊畑地区)山崎喜一郎、椎名玲子

(干潟(旧旭)地区)佐久間里美



①旭市飯岡しおさいマラソン大会(2月) ②市民スポーツのつどい(6月) ③健康体カづくりフェスティバル(11月) ④市民駅伝大会(12月)

(海上地区)浪川勝子、江畑理恵、遠藤俊彦、大久保昌浩、越川哲哉

(飯岡地区)金山理宏、梅原清活、林宏、野口稔

(干潟地区)衣鳩直喜、小澤昌志、大極晋一、宮野秀平

※敬称略

あさひ輝いた人々

第36回

千葉県連合婦人会 第4代会長

加瀬 てる (1909~1991年)



加瀬てるは、千葉県婦人連合会の会長として活躍しました。明治42(1909)年、共和村の木村家に生まれ、その後、旭町の歯科医と結婚して加瀬姓となります。てるは昭和20(1945)年、34歳のときに終戦を迎え、戦後民主化の柱の一つであった、女性の参政権による「婦人解放」の流れの中、女性としての生き方を考えるようになります。そして旭でも戦前から活動していた組織をもとに婦人会が誕生しました。てるは女性が地域で連携・交流し、明るい家庭と郷土をつくるための活動を進めていきます。昭和23(1948)年には、千葉県内の婦人会などを総括する組織、千葉県連合婦人会も設立されました。

後に旭市となってからは、中央、矢指、富浦、共和、豊畑、

嚶鳴の各支部を誕生させ、毎年の活動の成果を発表する消費生活展を行い、家庭や消費生活について新しい時代に合った取り組みを熱心に続けました。てるは人一倍熱心に、積極的に活動を行い、長年にわたり旭市の会長として婦人会の活動を支え、導いてきました。

昭和44(1969)年、58歳のときに、そのリーダーシップが認められ千葉県連合婦人会の第4代会長に就任し、数多くの実績を残しました。昭和53(1978)年に行われた創立30周年記念大会には『30周年記念誌』を発刊しました。そのあいさつの中で「終始一貫して変わらなかったのは、家庭を整え、地域に根を据えながら、人間の尊厳を守り、人間の幸せを求め、人間の幸せのための地域的な社会を築くことでありました」と述べ、女性の人権を強く訴えてきました。

昭和56(1981)年からは、全国地域婦人団体連絡協議会の副会長となり、平成3(1991)年、在任中に病気で亡くなるまでその役を務めました。その生涯を、女性の活動の場を広げるために尽力しました。



消費生活展のテープカットの様子